



SHIKOKU GAKUIN
UNIVERSITY

Wel-Fes in SGU 2025

ふくしでつながる、世代も未来も



ウェル・フェスは みんなが主役

Wel-Fes in SGUとは!

社会福祉学部が主催するイベント。今年で4回目を迎え、子どもから高齢者まであらゆる世代の人々が共に生きる社会を目指し、地域に潜む生活ニーズや新たな支援の取り組みに光を当てます。地域の「賑わい」を創出するとともに、参加者一人ひとりが自分にできることを見て、聞いて、楽しみながら身近な福祉を考える1日です。

2025年 **11月1日** **土** 時間/10:00-16:00

会場/四国学院大学 (善通寺市文京町3-2-1)

主催 四国学院大学 社会福祉学部 後援 善通寺市社会福祉協議会 香川県ソーシャルワーカー協会

Wel-Fes in SGU 2025

テーマ「ふくしでつながる、世代も未来も」

主催 四国学院大学 社会福祉学部

開催日時:2025 年 11 月 1 日(土)10:00～16:00

開催場所:四国学院大学(香川県善通寺市文京町 3-2-1)

1. 目的

地域社会が縮小していく現代において、誰もが暮らし慣れた場所で持続可能な生活を送るためには、地域全体で支え合う環境づくりが不可欠です。このイベントは、子どもから高齢者まであらゆる世代の人々が共に生きる社会を目指し、地域に潜むニーズや新たな支援の取り組みに光を当てるものです。地域の「賑わい」を創出するとともに、参加者一人ひとりが自分にできることを考え、行動するきっかけを提供します。

2. 参加対象者

一般市民、大学生、高校生、中学生、支援者(NPO、NGO、企業、行政など)、福祉関係者、まちづくり関係者、今後地域活動に関心のある方

3. プログラム構成

(1) 地域参加企画プログラム

地域に眠る支援のニーズを発見し、参加者と共有するプログラム。

(2) ワークショッププログラム

参加者が体験を通じて、福祉や自分自身について深く考えるプログラム。

(3) 企画講演プログラム

地域社会の多様な課題を専門的な視点から学び、考えるプログラム。

(4) 啓発イベント

生活問題に関わる課題について来場者に向けて啓発活動を行うプログラム。

(5) トークセッションプログラム

様々な立場のパネリストが経験を語り、参加者がこれからの社会を考えるヒントを得るプログラム。

Wel-Fes in SGU 2025 実行委員会

大学周边地图



キャンパスマップ



ご来場の皆さまへのお願いとご案内

1.お車でお越しの方へ

駐車場のご案内：

お車でお越しの際は、本学立体駐車場をご利用ください。

駐車料金：駐車料金は、1 回につき 300 円となります。

2.参加費について

イベント参加費は無料です。ふれあいマルシェなどのご購入やお食事などは、個人負担にてご利用ください。

3.総合受付について

- ・設置場所：総合受付は、アトリウムコイノスに設けています。
- ・ご不明な点がございましたら、総合受付にお申し出ください。本学スタッフはネックストラップをつけています。お近くのスタッフにもお気軽にお声がけください。

4.ご来場アンケートへのご協力のお願い

- ・ご退場の際は、ご来場アンケートのご記入にご協力をお願い致します。なお、アンケートは、下記の QR コードからご入力をお願いいたします。
- ・各プログラム会場にも QR コードを掲示しております。



5.プログラムの参加について(入退室)

- ・各プログラムは、様々な体験や理解を深めていただくため、各会場ともに出入り自由となっております。
- ・プログラム実施中の入退室は、プログラム進行にご配慮の上、お願いいたします。

6. 参加人数の制限のあるプログラムについて

- ・14:40～16:00 「自分を知ろう～心理テスト体験とグループワーク～」は、参加定員 は 40 名となっております。
- ・プログラム実施中の入退室はできません。
- ・参加希望の方は、開始時刻までにご入室ください。

7. ふれあいマルシェについて (営業時間)

店舗の種類	営業時間
ふれあいマルシェ(全体)	10:00～ 15:30
キッチンカー	11:00～ 15:00

8.マルシェ・クーポン配布について

- ・配布対象:ふれあいマルシェで利用できるマルシェクーポンを先着 200 名様に配布いたします。
- ・配布場所・時間:総合受付にて、10:00 より配布いたします。
- ・配布制限:お一人様 1 枚までとさせていただきます。お一人で複数枚(お連れ様の分)の受け取りは禁止させていただきます。ご希望のご本人様がお手続きください。
- ・終了について:予定枚数終了次第、配布を終了いたします。
- ・利用可能店舗:フード、加工品、ハンドメイド、ワークショップ(実費負担等があるもの)のマルシェ出店にてご利用いただけます。
- ・注意事項:クーポンを上回る料金については、お客様のご負担となります。

9.報道関係、取材関係の方へ

ご来場の際には、お手数ですがアトリウムコイノスにある総合受付にお立ち寄りください。

10.SDGs 展示プログラムの発表団体による滞在時間について

ご来場者の皆さまと出展団体担当者との説明や質疑応答を活発に行うことを目的に、出展者による滞在時間を設定しております。ぜひ、この時間に合わせにご来場ください。(なお、滞在時間を設定していない団体もあります。)

	発表団体
滞在時間 A 13:00-14:00	つながるネット株式会社(GIFTED & TALENTS) 一般社団法人 MYTREE 自由っこ広場
滞在時間 B 14:30-15:30	NPO 法人ペアレントメンターかがわ

11. 来年度 Wel-Fes in SGU 2026 の参加希望や参加構想をお持ちの方へ

この度はご来場いただきありがとうございました。現在、地域でまちおこし、地域づくり、福祉活動などに取り組んでおり、来年度の Wel-Fes での発表参加や出展をご検討されたい団体・個人の方がいらっしゃいましたら、総合受付にお立ち寄りください。

Wel-Fes in SGU 2025 スケジュール

2025年11月1日(土) 10:00～16:00

校 舎	アトリウム・コイノス	アトリウム・コイノス	7号館	7号館	7号館	4号館	4号館
フロア	周辺	1F	1F	1F	1F	1階	1階
教 室			711教室	712教室	玄関ホール	411教室	412教室
9:30	9:30より会場受付開始						
10:00	<div>【地域参加型 プログラム】</div> <div>ふれあい マルシェ</div> <div>10:00-15:30</div> <div>【キッチンカー 営業時間 11:00-15:00</div>	<div>【地域参加型 プログラム】</div> <div>小さな福祉活 動実践報告会</div> <div>10:00-12:30</div>	<div>【地域参加型 プログラム】</div> <div>SDGs展示 プログラム</div> <div>11:00-16:00</div>	<div>【啓発イベント】</div> <div>学生による オレンジ リボン運動 ～児童虐待防止推進月 間スタート～</div> <div>11:00-16:00</div>	<div>【企画講演】</div> <div>エジプトの子ども たちと保育の現 場：家庭・暮ら し・宗教、そして 日本の多文化対応 へ</div> <div>13:10-14:30</div>	<div>【トークセッション】</div> <div>私が福祉に 近づいた日 ～身近な所にある 福祉の種～</div> <div>13:10-14:30</div>	
10:30							
11:00							
11:30							
12:00		<div>【ワークショップ】</div> <div>みんなでヨボウ ～からだも心も元 気になるためにで きること～</div> <div>13:10-14:30</div>			<div>【ワークショップ】</div> <div>つながれ未来 の若者支援</div> <div>14:40-16:00</div>	<div>【ワークショップ】</div> <div>デフリンピッ クで学ぶ手話</div> <div>14:40-16:00</div>	<div>【ワークショップ】</div> <div>自分を知ろう ～心理テスト体験とク ループワーク～</div> <div>14:40-16:00</div>
12:30							
13:00							
13:30							
14:00							
14:30							
15:00							
15:30							
16:00							

Wel-Fes in SGU 2025 プログラム一覧

時間	教室	プログラム	内容紹介
10:00～ 12:30	アトリウム コイノス	第2回小さな福祉活動実践報告会	【地域参加企画】地域でより良い取り組みをしている方々に支援活動を発表、これからの地域社会のあり方を探ります。
13:10～ 14:30	アトリウム コイノス	みんなでヨボウ～からだも心も元気になるためにできること～	【体験ワークショップ】高齢者の方を対象に、みんなで楽しく、体を動かしてみましよう。
13:10～ 14:30	4号館1階 411教室	エジプトの子どもたちと保育の現場～家庭・暮らし・宗教、そして日本の多文化対応へ～	【企画講演】地域の国際化が進む現代において外国籍の人々の文化や価値観を理解することを目的として、エジプトの保育現場の現状を知ること、多文化共生社会のあり方を考えます。
13:10～ 14:30	4号館1階 412教室	私が福祉に近づいた日 ～身近なところにある福祉の種～	【トークセッション】福祉を仕事に選んだパネリストが、そのきっかけや思いを語ります。人との関わりの中で社会をより良くしていくためのヒントを共有します。
14:40～ 16:00	7号館1階 711教室	つながれ未来の若者支援	【トークセッション】若者が直面する問題に対し、支援活動に取り組むパネリストを招き、これからの若者支援のあり方について考えます。
14:40～ 16:00	4号館1階 411教室	デフリンピックで学ぶ手話	【体験ワークショップ】聴覚障がいに関する理解を深めるため、楽しみながら手話を学べる体験型ワークショップです。
14:40～ 16:00	4号館1階 412教室	自分を知ろう～心理テスト体験とグループワーク～	【体験ワークショップ】心理テスト（エゴグラム）を行い、自己理解を深めましょう。グループワークでは、自分がどのように人に仕えていきたいか将来のビジョンを語り合ひましょう。
11:00～ 16:00	7号館玄関 ロビー	学生によるオレンジリボン運動 ～児童虐待防止推進月間スタート～	【啓発イベント】11月は児童虐待を考える児童虐待防止推進月間です。オレンジリボン運動を通じて児童虐待について一緒に考えましょう。
11:00～ 16:00	7号館1階 712教室	SDGs展示会	【地域参加企画】地域で活動する団体の支援活動、社会活動などをポスター等の展示発表プログラム。興味のある活動を見つけてみてください。発表団体の詳細はパンフレットをご確認ください。
10:00～ 15:30	アトリウム コイノス 周辺	ふれあいマルシェ	【地域参加企画】フード、加工品、ハンドメイド、キッチンカー、ワークショップ等の出店があります。※先着200名にマルシェで使用できるクーポンを配布予定

第2回小さな福祉活動実践報告会

アトリウムコイノス 10:00-12:30

1. 企画趣旨

小さな福祉活動実践報告会は、2024年度に始まり、今回で2回目の開催となります。人口減少が進む地域社会において、持続可能な地域づくりは重要な課題です。住み慣れた地域での生活を続けるためには、さまざまな取り組みを通じてより良い地域社会を築いていく必要があります。この報告会では、私たち一人ひとりの小さな気づきから生まれた、地域に眠る課題を解決しようと取り組む個人や団体の「小さな福祉活動」に光を当てます。私たちが考える「小さな福祉活動」とは、人と人、人と地域社会の関係をつなぎ、さまざまな課題を解決することで、地域に暮らす人々に良い影響を与える活動です。こうした活動には、主に2つの重要な側面があります。

(1)身近な生活に潜む課題に気づききっかけを提供する

(2)多様な問題解決の実践が生まれる可能性を秘めている

これらの活動を通じて、地域社会の可能性と選択肢を広げ、これまでにないアイデアに満ちた地域づくりの起点となる可能性があります。「小さな福祉活動」を発掘し、その取り組みに光を当てることは、人と人との結びつき、ふれあい、賑わい、支え合いを促し、さらには地域おこしへと発展させていくことにつながります。その結果、地域全体の持続可能性を高められることを期待するものです。

2. 発表予定者(順不同)

発表者	
終活ノオト・きむらなみ	ミカママスクール
NPO 法人グリーフサポートてらすば	やさしいハイヒール
四国学院大学専門学校	川田中家
三豊市社会福祉課	NPO 法人自立援助ホーム
精神保健福祉ボランティア「もえぎの会」	*****

3. 発表要旨集

発表要旨集は、別途「第2回小さな福祉活動実践報告会」をご覧ください。

4. 発表者インタビュー

大山 治彦(四国学院大学社会福祉学部)

5. 司会進行

野崎 晃広(四国学院大学社会福祉学部)

SDGs 展示プログラム

7号館 1階 712教室 11:00-16:00

1. 企画趣旨

SDGsは、「誰一人取り残さない」社会の実現を目指し、社会・経済・環境の3つの側面を統合的に解決しようとする取り組みを進めることを掲げています。Wel-Fes in SGUが取り上げる社会課題と関連性があるものは、「すべての人に健康と福祉」「住み続けられるまちづくり」が近い課題となります。私達が地域社会で安心して生活ができるには、地域社会にどのような支えを必要とする人々や生活問題があるのでしょうか。また、住み続けられるためのまちづくりでは、単なるインフラ整備に留まらず、福祉の視点も強く求められ、尚かつ包摂的(インクルーシブ)な生活の場を作ることが求められます。本プログラムでは、地域社会のなかで、志を持って地域に横たわる課題に対して団体(個人含む)が、取り組む社会課題や活動状況を展示プログラムとして発表をしていただきます。

なお、ご来場者の皆さまと出展団体担当者との説明や質疑応答を活発に行うことを目的に、出展者による滞在時間を設定しております。ぜひ、この時間に合わせてご来場ください。(滞在時間を設定していない団体もあります。)

◆出展団体・個人(順不同)

つながるネット株式会社 (GIFTED & TALENTS)
やさしいハイヒール
川田中家 (田中昭全 & 川田有希)
三豊市役所健康福祉部福祉課
NPO法人ペアレントメンターかがわ
認定NPO法人子育てネットくすくす
言葉と幸せ
自由っこ広場
四国学院大学スクールソーシャルワーク・メジャー
一般社団法人MYTREE
コトナ工作室
ヒュッゲライフ香川
NPO法人子ども虐待防止ネットワークかがわ
認定NPO法人わははネット
一般社団法人 小豆島子ども・若者支援機構

	発表団体
滞在時間 A 13:00-14:00	つながるネット株式会社(GIFTED & TALENTS) 一般社団法人 MYTREE 自由っこ広場
滞在時間 B 14:30-15:30	NPO 法人ペアレントメンターかがわ

学生によるオレンジリボン運動

～児童虐待防止推進月間スタート～

7号館1階玄関ロビー 11:00-16:00

1.企画趣旨

11月は、児童虐待防止推進月間です。どの子育て家庭にとっても子育ては、深刻な問題であり、地域社会からの孤立をはじめ、子育ての不安、子どもに対するイライラなど、保護者にとっては日常を送ること苦しい、そんな家庭が少なくありません。子どもに強く当たってしまう、感情的な言動を子どもにぶつけてしまう、子どもの育児を放棄してしまうなど、保護者が結果的に子どもの成長を妨げてしまうような事態が発生することがあります。これが、児童虐待と呼ばれる問題です。保護者の孤立が、子ども虐待を誘発する原因になるとするならば、社会全体で子ども、保護者を支えることをみんなで考える必要があります。今回の啓発イベントでは、児童虐待防止運動を Wel-Fes in SGU にご来場いただきました皆さまに啓発活動を行います。

社会福祉学部子ども福祉メジャー・保育養成コースの学生が中心になって啓発イベントを展開します。また、オレンジリボンを学内で配布するなどのいたしますので、ご協力のほどお願いいたします。

◆啓発活動について

- ・オレンジリボンの配布
- ・パネル展示
- ・児童虐待に対するメッセージボード

企画講演

エジプトの子どもたちと保育の現場 ～家庭・暮らし・宗教、そして日本の多文化対応へ～

4号館1階 411教室 13:10-14:30

1. 企画趣旨

企画講演プログラムは、地域社会の多様な課題を専門的な視点から学び、考えるプログラムです。近年、私達の生活する身近な場においても、外国籍の人々が増えてきていることが実感できる場面が増えてきました。一方で、保育や教育現場では、日本で生まれた外国籍をルーツに持つ子ども達が、香川県においても増加傾向にあります。例えば、保育現場では、日本の風土の中で、子どもは保育されていくこととなりますが、保護者が持つ日本に來日するまでに経験してきた、生活、慣習、価値観、宗教観を気にしながらも保護者の対応をしている現状があります。今回は、JICA海外協力隊としてエジプトで幼児教育に携わってきました松下陽子氏を迎え、現地での取り組みから、私達の身近な地域社会での課題について講演していただきます。

2. 講演概要

本講演では、JICA海外協力隊としてエジプト・ポートサイドで幼児教育に携わった経験をもとに、現地の子どもたちの暮らしや家庭、宗教について紹介します。異文化の中で見えた保育の本質や、現場で感じた課題を通して、日本の保育現場における外国籍の子どもや保護者対応のヒントを探ります。

講師プロフィール

松下 陽子 氏

中米パナマで幼少期を過ごし、大学で保育心理を専攻。交換留学を経て、東京にて国際的な非営利団体のチャイルドケア部門に所属。公設民営こども園勤務を経て、JICA海外協力隊としてエジプトに赴任。現在は香川県在住。地域の英語・日本語学童での勤務に加え、プライベートでも海外関係者との交流を重ねながら、外国籍の子どもや保護者との関わりを深めている。国際経験をもとに、保育・教育の多様性について発信を始めている。

体験ワークショップ

みんなでヨボウ

～カラダもココロも元気になるために～

アトリウムコイノス 13:10-14:30

1. 企画趣旨

本企画は、高齢者の介護予防や認知症予防の観点から、身体を動かすことの重要性を学び、体験する機会を提供することを目的としています。まずレクチャーを通じて、日常生活の中で身体活動を取り入れる意義について理解を深め、その後に実際のアクティビティを通じて、日常生活で実践できるように学びます。さらに本企画は、大学が地域に開かれた学びの場を提供することで、高齢者・子ども・若者が世代を超えて交流し合い、互いに学び合う体験の場となることを目指しています。

2. 講師

四国学院大学専門学校 小林 武司
四国学院大学社会学部 片山 昭彦

トークセッション

私が福祉に近づいた日

～身近なところにある福祉の種～

4号館1階412教室 13:10-14:30

1. 企画趣旨

世の中には様々な職種があります。その中でも、特に「福祉」に関わっている方をみて、どうして福祉の仕事をしているのか、疑問に思ったことはありませんか。

そこで、現在、福祉に携わっている3名の方に、これまでの人生を振り返ってもらい、福祉に繋がることになった体験や出来事を話してもらうことで、福祉に携わることの意味をみなさんと一緒に考えてみたいです。

2. 発表者

■小笠原 恵 <香川県子ども女性相談センター・課長>

【発表タイトル】 私の「福祉」の入口と今

■殿脇 加越里 <相談支援センター白鳥・相談支援専門員>

【発表タイトル】 偏見から福祉を知る

■豊田 加奈 <香川県西部子ども相談センター・児童福祉司>

【発表タイトル】 子どもたちとの出会い ～福祉への道～

司会進行 李 静淑(四国学院大学社会福祉学部)

デフリンピックで学ぶ手話

4号館1階412教室 14:40-16:00

1. 企画趣旨

日本で初めて開催される「デフリンピック東京2025」は、今年デフリンピック100年記念大会です。デフリンピックとは、デフ+オリンピックのことを言います。デフ(Deaf)とは、英語で「耳がきこえない」という意味です。デフリンピックは国際的な「きこえない・きこえにくい人のためのオリンピック」なのです。4年毎に開催されるデフアスリートを対象とした国際スポーツ大会です。第1回は、1924年にフランスのパリで開催されました。東京2025デフリンピックは、100周年の記念すべき大会であり、日本では初めての開催になります。国際手話のほか、スタートランプや旗などを使った視覚による情報保障が特徴です。

デフリンピックには、①「ほちょう器」などを外した状態で、きこえる一番小さな音が55 dB(デシベル)※を超えており、②各国の「ろう者スポーツ協会」に登録されている選手で、記録・出場条件を満たしている人が参加できます。日本でデフリンピックが開催されるような歴史的な時期と重なり、この機会にデフリンピック手話を学んでみませんか。

このプログラムでは、聴覚障がいに関する理解を深めるため、楽しみながら手話を学べる体験型ワークショップです。興味、関心のある方のご来場をお待ちしております。

2. 講師

阿部忍(四国学院大学非常勤講師)
手話通訳士

自分を知ろう

～心理テスト体験とグループワーク～

4号館1階 412教室 14:40-16:00

1. 企画趣旨

この企画では、心理テストとグループディスカッションを行います。

心理テストでは自分自身をよく知り、グループディスカッションでは、「自分を大切にすること、人を大切にすること」について話し合います。自分自身や人を深く広く受け止め、人生を豊かに歩むための有意義な時間を皆様と共に過ごすことができれば幸いです。

グループディスカッションを含む参加型の企画です。積極的なご参加をお願いいたします。

2. 講師

四国学院大学社会福祉学部 山口孔丹子

トークセッション

つなぐ未来の若者支援

7号館1階711教室 14:40-16:00

1. 企画趣旨

日本の総人口は2008年をピークに減少に転じ、今年1月の時点で過去最大の減少幅となっています。人口減少の主な要因は少子化であり、未来に向けて現在の社会を維持し発展させるためには、子どもを含む若者への支援が必要不可欠です。一方、若者を取り巻く現状は、貧困、虐待、メンタルヘルスの課題等、多岐にわたる重複した困難を抱えるケースの増加が目立ち、単一の支援機関だけでは対応が難しくなっています。国はこれらを重くとらえ、児童手当の拡充等の経済的支援や働き方改革、非正規雇用の是正等に加えて、今年度からは児童虐待防止対策の強化や困難を抱える子どもと家庭への支援ということで、ヤングケアラーや子どもの貧困等、複合的な課題を持つ家庭への支援をスタートさせました。今後は、福祉、教育、医療、労働の分野が連携した支援健康服地体制の強化が求められます。

本プログラムでは、こどもの貧困、虐待、逸脱、メンタルヘルス、不登校や対人関係問題、若者のひきこもりや自立等に取り組んでいる4人の専門家から、日々の実践を振り返りながら、これからの若者支援の課題と展望について語っていただきます。

トークイベント形式となりますので、研究発表や実践報告とは異なり、発言者が双方に質問したり、意見を交わします。また、参加者の皆さんからの意見や質問にも時間の許す限り応答したいと考えています。

2. 発表者

豊岡 大祐 （香川県健康福祉部子ども政策推進局子ども家庭課）

トーク内容 「ヤングケアラー対策」

森岡 優 （株式会社 Y&M 統括管理者）

トーク内容 「こどもの養護と生活支援」

宮武 将大 （一般社団法人 ヒトトコ 代表理事）

トーク内容 「若者のひきこもりとその支援」

川添 美智 （香川県教育委員会高校教育課スクールソーシャルワーカー）

トーク内容 「学校現場の相談援助」

司会進行 西谷 清美 （四国学院大学社会福祉学部）